

平成 25 年 1 月 4 日

各 位

大和証券グループ本社

2013 年 日比野社長 新春ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年、2012 年は、国内外の政治・経済が大きく動き、当社グループにも非常に大きな出来事が相次いだ 1 年でした。政治の世界では、世界の主要国で新体制への移行が相次ぐ中、日本でも年末に劇的な政権交代が起きました。経済に関しては、日経平均株価が春先こそ 1 万円の大台を回復したものの、4 月以降は欧州債務危機の深刻化、円高進行、中国経済の急減速、尖閣問題など、断続的に訪れるリスクオフ・モードの中で、8,000 円台の低迷からなかなか抜け出せない展開が続きました。しかし、11 月の衆議院解散を契機に、急ピッチの円高修正と歩調を合わせて、株式市場も急回復し、3 年振りに年足が陽線で年を終えました。

大和証券グループにとっての 2012 年は、リテール証券・ホールセール証券を 13 年振りに統合し、新・大和証券として再出発した大きな節目の年でした。また、新・中期経営計画を策定し、その初年度として再生＝ターンアラウンドをスローガンに、構造改革や合理化計画を集中して実施しました。そのような中、証券 2 社統合に伴う増収効果も着実に現われ、グループ経営目標として掲げた「初年度の黒字転換」に向かって確かな手応えを感じています。その他にも、大和ネクスト銀行の預金残高 2 兆円規模への成長、それを梃子にした「証券銀行連携ビジネス」に関する進展や、JAL 再上場・中国 PICC (中国人民保険集団) の IPO といった象徴的な案件において主要な役割を担うなど、顕著な具体的成果を挙げました。大和総研を中心としたミャンマーの資本市場育成支援に関する活躍も、当社グループのプレゼンスを大いに高めました。これらの成果を通じ、証券業界における当社のポジションや国内外での評価は、確実に高まり、株価にもそれが反映された 1 年でした。

本年、2013 年は、新・中期経営計画における初年度の「再生」のフェーズを順調に仕上げ、次の「成長」のステージへと駒を進める年になります。引き続き経営効率を高めつつ、従来以上にトップラインを強く意識した、「攻め」の事業展開を加速させていきます。特に、「貯蓄から投資への時代」を大和がリードすることグループ共通の大方針として取り組み、我が国金融市場における当社のプレゼンスを高め、顧客基盤を飛躍的に拡大させていくことが、最大の経営目標です。それに向けた具体的な重点テーマは、証銀連携ビジネスモデルの進化、アセットマネジメント事業の強化、相続を念頭に置いた富裕層向けビジネスの強化です。日本株のボトムアウト、円のピークアウトなどの歴史的なトレンド転換を確認した現在の局面は、預金・国債に過度に集中した金融資産をエクイティと国際分散投資に誘導する、つまり、我が国に「貯蓄から投資へ」の大きな潮流を創り出す歴史的なチャンスだと考えています。圧倒的な競争力を持つ大和ネクスト銀行をゲートウェイとしてフル活用し、「貯蓄から投資へ」の流れを大和証券グループの手で創り出していきます。

大和証券グループは、今後も商品・サービスを今迄以上に充実させ、お客様のご期待に沿えるよう尽力してまいります。

本年も大和証券グループをどうぞよろしくご願ひ申し上げます。

以 上